



インターカルチュラル・シティ・プログラム 視察要項



主催：欧州評議会
助成：国際交流基金



概要

外国人住民をはじめとする住民の多様性を、脅威や解決すべき問題ではなく寧ろ好機と捉え、街の活力（ダイナミズム）、革新（イノベーション）、創造（クリエイティビティ）、成長の源泉とする新しい都市政策として、いま欧州では「インターカルチュラル・シティ」という考え方が注目されています。欧州評議会が中心となって進められている「インターカルチュラル・シティ・プログラム」では、趣旨に賛同する欧州 12 都市が参加して、お互いの知見・経験を交換しています。

昨年（平成 21 年）は、この「インターカルチュラル・シティ・プログラム」の代表団が来日し、日本の多文化共生を視察するとともに、シンポジウムを実施しました。

（報告書はこちらをご覧ください：<http://www.jpfi.go.jp/j/intel/report/20.html>）

今年（平成 22 年）は、欧州での「インターカルチュラル・シティ・プログラム」の一環として行われる、ヌーシャテル市（スイス）とレッジョ・エミリア市（イタリア）の視察と意見公開会に参加すべく、他のインターカルチュラル・シティ・プログラム参加都市・提携都市代表者や、欧州の専門家、欧州都市連合等の代表者、などとともに、主催者である欧州評議会が日本の多文化共生の関係者を招聘します。

● 参加者と人数：

- 日本において外国人住民を抱える自治体関係者（市長、市議、自治体職員、など）：3 名程度
- 外国人住民に関する研究者：2 名程度
- NGO 代表、ジャーナリスト、など：2 名程度

● 条件：通訳がないため、英語でのやり取りが十分にできること

● 補足：国際交流基金の担当職員が随行の予定

日程 (予定)

◆ 日程

期間：平成 22 年 10 月 19 日～10 月 25 日

10/19 (火)	成田発 (09:35、LH711) フランクフルト着 (14:15)、同発 (16:40、LH3732) チューリッヒ着 (17:30) 陸路ヌーシャテル市へ移動 同市職員と夕食会
10/20 (水)	午前 会議 (ICC 説明、ヌーシャテル説明、討議) 午後 ヌーシャテル視察 (NIVAROX 社におけるインターカルチュ ェラル・トレーニング、若者との対話、差別主義者のリハ ビリ、など)
10/21 (木)	午前 ヌーシャテル視察 午後 移動 (コモ湖経由) レッジョ・エミリア着
10/22 (金)	終日 レッジョ・エミリア視察 (学校、病院、など)
10/23 (土)	午前 レッジョ・エミリア視察 (ICC センター代表との面談) 午後 公開イベント (参加者による発表と意見交換)
10/24 (日)	レッジョ・エミリア発、陸路ボローニャへ移動 ボローニャ発 (10:30、LH3971) フランクフルト着 (12:00)、同発 (13:35、LH710)
10/25 (月)	成田着 (07:30)

視察都市概要

◆ ヌーシャテル市（スイス）

◇ ヌーシャテル州の州都。フランス国境近く、ヌーシャテル湖の湖畔に位置し、時計産業が盛ん。そのほか、ワイン醸造や観光業など。フランス系住民が多くを占める。

◇ 人口と外国人の構成は以下の通り。（2007年4月）

人 口：169,022人

外国籍：38,843人（143カ国）

（内訳）ポルトガル（10,506人）、コンゴ（256人）、イタリア（8,538人）、ブラジル（225人）、フランス（5,466人）、オランダ（220人）、旧ユーゴスラビア（2,898人）、ソマリア（194人）、セルビア・モンテネグロ（1,684人）、ルーマニア（191人）、ボスニア・ヘルツェゴビナ（915人）、アンゴラ（181人）、マケドニア（169人）、アルジェリア（181人）、クロアチア（118人）、タイ（175人）、スロヴェニア（12人）、中国（172人）、米国（162人）、スペイン（2,359人）、カナダ（162人）、トルコ（823人）、ロシア（159人）、ドイツ（801人）、ドミニカ共和国（134人）、モロッコ（434人）、オーストリア（124人）、ベルギー（423人）、スウェーデン（118人）、英国（395人）、コロンビア（112人）、チュニジア（368人）、コートジボワール（111人）、スリランカ（267人）、カメルーン（257人）、その他（2,431人）

◆ レッジョ・エミリア市（イタリア）

◇ レッジョ・エミリア県の県都。古代ローマ時代からの都市で、旧市街は16世紀の城壁に囲まれている。農産・畜産品が豊かで、特にパルミジャーノ・レッジャーノ・チーズ（パルメザンチーズの起源）で有名。

◇ 人口と外国人の構成は以下の通り。（2007年4月）

人 口：159,809人

外国籍：18,216人（非EU加盟国）、その他EU加盟国籍は851人

（内訳）アルジェリア（2,600人）、モロッコ（2,573人）、中国（2,117人）、ガーナ（1,503人）、ウクライナ（1,232人）、チュニジア（1,145人）、エジプト（1,112人）、ナイジェリア（723人）、ルーマニア（714人）、モルダヴィア（568人）、スリランカ（488人）、セルビア・モンテネグロ（383人）、ポーランド（338人）、セネガル（272人）、フィリピン（208人）、インド（192人）、ブラジル（192人）、ドミニカ共和国（188人）、ロシア（188人）、アルジェリア（170人）、その他（1,311人）

インターカルチュラル・シティ・プログラム



◆ 参加都市

ティルブルフ市（オランダ）、ベルリン・ノイケルン区（ドイツ）、イジェフスク市（ロシア）、ルブリン市（ポーランド）、リヨン市（フランス）、メリトポリ市（ウクライナ）、ヌーシャテル市（スイス）、オスロ市（ノルウェイ）、パトラ市（ギリシア）、レッジョ・エミリア市（イタリア）、スボティツァ市（セルビア）

◆ 提携都市

バルセロナ市（スペイン）、グリニッジ市（英国）、ストラスブール市（フランス）、キエフ市（ウクライナ）

主催団体等について

◆ 欧州評議会とは

ストラスブール（フランス）に本部のある欧州評議会は、欧州連合加盟国 25 カ国のほか、旧ユーゴ諸国、ロシア、ウクライナ等を含め 46 ヶ国の加盟する汎欧州機関で、多数国間条約の作成やスタンダード設定、欧州における基本的人権の擁護と推進、民主化・人権擁護等の分野での協力などを主な役割としている。日本は、バチカン、米国、カナダに続き、96 年より閣僚委員会のオブザーバー国となる。

この欧州評議会に対して国際交流基金は、平成 20 年度で通算して 16 年目となる助成を行っており、リーダー層の人的パイプの維持・構築等に成果を挙げてきているとともに、欧州評議会に対する日本の貢献として同評議会から高い評価を得ている。平成 20 年度は、同評議会の進める「インターカルチュラル・シティ・プログラム」の一環である「多様性をマネージする：より強い共同体、より良い都市」会議（2009 年 4 月 15 日～17 日、ティルブルフ市、オランダ）に対して、助成を実施した。

欧州評議会ホームページ：<http://www.coe.int/>

同インターカルチュラル・シティ・プログラム：

http://www.coe.int/t/dg4/cultureheritage/Policies/Cities/default_en.asp

欧州評議会概要（外務省、ストラスブール総領事館、両ホームページより）：

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ce/index.html>

<http://www.strasbourg.fr.emb-japan.go.jp/ce/ce.html>

◆ 国際交流基金とは

世界の全地域において総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関。国際相互理解を深め、平和な国際社会構築に貢献する活動を行う。1972 年に外務省所管の特殊法人として設立され、2003 年に独立行政法人となる。国内に本部（東京・新宿）と京都支部、2 つの附属機関（日本語国際センター、関西国際センター）、海外 20 カ国 22 拠点を有する。文化芸術交流、海外における日本語教育、及び日本研究・知的交流の 3 つを主要活動分野としている。

国際交流基金ホームページ：<http://www.jpfa.go.jp/j/>

【連絡先】 国際交流基金 日本研究・知的交流部 欧州・中東・アフリカチーム 嶋根智章
TEL：03-5369-6071、FAX：03-5369-6041、e-mail：Tomoaki.Shimane@jpfa.go.jp